

Title	都市景観における視覚的構成要素の様相に関する研究
Author(s)	亀谷, 義浩
Citation	大阪大学, 2000, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/42335">https://hdl.handle.net/11094/42335</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉</a> 大阪大学の博士論文について <a>〉</a> をご参照ください。

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	かめ たに よし ひろ 亀 谷 義 浩
博士の専攻分野の名称	博 士 (工 学)
学位記番号	第 15711 号
学位授与年月日	平成12年9月27日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 工学研究科建築工学専攻
学位論文名	都市景観における視覚的構成要素の様相に関する研究
論文審査委員	(主査) 教授 舟橋 國男  (副査) 教授 吉田 勝行 教授 柏原 士郎 北海道大学大学院教授 奥 俊信 助教授 小浦 久子

### 論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、都市景観における視覚的構成要素である様相を現象学的総合性の観点から「色彩の様相」と捉え、この色彩の様相概念を用いた都市景観における色彩現象の把握ならびに色彩評価の新たな指標の着想・展開を目的としている。

第1章では、研究の背景、目的と意義、方法を述べ、本研究と色彩学、建築計画学、都市計画学等における色彩に関わる既往研究との関係を整理し、本研究の位置付けを行っている。

第2章では、都市景観において知覚される色彩の現象性に着目し、その様々な現象を色彩現象の多様性として、見かけの色彩の変化と色彩の様相の二側面から大阪ビジネスパーク（OBP）地区を対象として観察調査を行っている。色彩の変化については、観察条件別の色彩変化範囲や特性を明らかにし、色彩の様相については、その現象の特徴を詳細に分類・分析し、D. Katzにより提唱された色彩の様相の都市景観の解釈を加えている。また、新たに都市景観を評価する上で重要と考えられる色彩の様相を見出している。

第3章では、第2章に示した色彩の現象性の中に見られた色彩の様相に着目し、大阪都心部における商業・業務地区を事例として、色彩の様相がどのようにとらえられているかを実証し、色彩の様相概念の重要性を指摘している。また、色彩の様相の属性をとらえ、様相言語に細分類し、それぞれに基づいた都市景観分析を行って、色彩の様相の諸現象を明らかにしている。

第4章では、色彩の様相概念が、都市計画や建築計画において効果的な役割を果たすために、色彩の様相と建築外装材の関係について、第3章と同様の大阪都心部における商業・業務地区を事例として明らかにするとともに、建築外装材における色彩の様相の特性から見た、建築外装材デザインに関する建築計画上・都市景観計画上の留意点を示している。

第5章では、色彩と色彩の様相および街並の特徴の観点から、世界の魅力ある美しい街の事例分析を行って街固有の特性を明らかにし、都市景観を分析する上で重要と考えられる色彩の様相を見出している。

第6章では、都市景観における色彩の様相を総括して、体系化を試みている。色彩の様相の種類とその現象の特徴を定義し、色彩の様相を空間的モデルによって表す様相立体を提案している。また、色彩の様相の調和および色彩の様相の変化について考察を加えている。

第7章では、本研究の結論として、都市景観における色彩の様相概念の有効性ならびに色彩の様相概念の都市計画・

建築計画的手法としての考察および今後の課題を示している。

## 論文審査の結果の要旨

都市景観の整備は、快適な都市生活環境を形成する上で重要な課題の一つである。

既往の都市景観研究ならびにこれらに基づく景観デザインは、都市景観の視覚的構成要素の形態・色彩とその配置に関する物的側面に注目した計量的取り扱いに限定されていた。これに対して本研究は、人間の日常的な景観体験に即した現象学的総合性の観点から、それら視覚的構成要素の様相に注目して、これを「色彩の様相」として捉える独自の新しい視点を提唱し、この色彩の様相概念を用いた都市景観における色彩現象の把握ならびに色彩評価の新たな指標の着想および色彩の様相概念の確立・展開を行っている。その主な成果は次の通りである。

- (1) 都市景観において現実に知覚される色彩現象の多様性に着目し、実存するオフィスビル群を対象に野外観察調査を行い、距離・方向・気象等の観察条件別の色彩変化範囲やその特性を明らかにするとともに、色彩の様相現象の特徴を詳細に分類・分析し、D. Katzにより提唱された色彩の様相の都市景観的解釈を得ている。
- (2) これに基づき、都市景観を評価する上で重要と考えられる色彩の様相を新たに見出している。
- (3) 商業・業務地区を事例として、日常の都市景観体験における様相の把握の実態を実証的に検証し、色彩の様相概念の重要性とその属性を明らかにして様相言語細分類を得た上で、都市景観における色彩の様相の諸現象解明に適用している。
- (4) 商業・業務地区を事例として、色彩の様相と建築外装材との関係を明らかにし、建築外装材について色彩の様相の特性から見た、建築外装材デザインに関する建築計画上・都市景観計画上の指針を示している。
- (5) 都市景観における色彩の様相を総括して体系化を試み、色彩の様相の種類とその現象の特徴を定義し、色彩の様相を空間的モデルによって表す様相立体を提案している。また、これらに基づき、色彩の様相の調和および色彩の様相の変化についても独自の考察を行っている。

以上のごとく、本論文は、都市景観における視覚的構成要素の様相に関して、「色彩の様相」という独自の観点を提示し、色彩の様相現象の詳細かつ実証的な解明を行い、総合的体系化を図って都市景観デザインへの新たな適用の可能性を示しており、建築工学、特に、都市景観研究の発展に寄与するところ大である。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。